

の長樂寺、熱塩あつしおの示現寺しげん、喜多方市北町の公園にも建てられています。どの銅像も、やさしさに満ちたおだやかな目で、子供たちを見守っているようです。

生おいたち

瓜生岩子は、今から約百五十年前、文政十二年（一八二九年）、今の喜多方市北町の大きな油屋の娘として生れました。岩子は、何不自由なく育ち、幼いころは、しあわせな日が続きました。しかし、そのしあわせな生活に、思いがけない不幸がおそってきました。父が急病にかかってなくなり、その葬式そうしきから五十日目に家が火事になり焼け出されてしまったのです。岩子が九歳のときでした。このことがあって、岩子は、母の里の熱塩の山形屋瓜生家に行き、瓜生の姓せいを名のるようになりました。